

## 第13回支部通常総会を開催

(一社)日本建設機械施工協会中国支部は、第13回通常総会を令和6年5月21日(火)に広島ガーデンパレスにおいて、支部団体会員85団体(うち委任状36団体)の参加のもと開催しました。今回の総会も、昨年と同様に新型コロナ対応前で開催していた総会の内容に戻して、主要議事と表彰に加え講話と記念講演、引き続き懇親会を実施しました。



開会の挨拶(河合支部長)

### <河合支部長開会の挨拶>

新型コロナウイルス感染者が発生して早4年が経過し、5類感染症に位置付けられ、1年が経過していますが、未だに鎮まっていないことから当協会においても、引き続きコロナ対策を講じた上で、通常の形での総会や研修会、講習会、セミナー等を開催しています。

こうした中、社会経済活動の継続は、喫緊の課題であり、なかでも「能登半島地震」など近年の激甚化、頻発化する自然災害に備える国土強靱化が今まで以上に重要となっています。一方、戦後の高度経済成長期に整備された社会インフラも高齢化の域に近づきつつあり、また、南海トラフ地震等の発生も現実味を帯びる中、これらインフラの更新、老朽化対策等が喫緊の課題とされ、防災・減災対策を含めた総合的な取り組みが望まれています。

これらの課題を踏まえ、新年度の政府予算は、公共事業関係費約6兆800億円が計上され、前年度と同程度となっています。この限られた予算を有効に活用するためには、より集中的、効果的な取り組みが強く求められるところです。また、公共工事関連の設計労務単価もここ12年間連続でアップされ、新年度は、全職種単純平均で前年度に比べ5.9%引き上げられており、今後、建設産業従事者の処遇の改善と雇用の増大が期待されます。ただ、建設業の「2024年問題」といわれる働き方改革がこの4月からスタートし、技術者や技能者の不足といった深刻な問題があり、その早急な解決策が求められているところです。

加えて、『建設DX』『i-Construction』は、国土交通省はもとより、地方公共団体でも取り組みが促進され、いよいよ本格的な実施段階にきています。また、BIM/CIMは、国土交通省の直轄案件において全面適用とされており、当協会支部においても今まで以上に「デジタル技術の効果的な活用」を中心に『建設DX』『i-Construction』の普及・促進に向けて情報発信、人材育成等に取り組んでまいります。皆様方の引き続きのご支援、ご協力のほど宜しくお願いします。

### <令和5年度事業報告など>

令和5年度事業報告及び決算報告、令和6・7年度の役員改選、令和6年度事業計画(案)及び収支予算(案)の審議が行われ、いずれも原案通り承認されました。役員については引き続き河合支部長が再選され、他の役員も選任されました。

### <感謝状の贈呈>

「一般社団法人日本建設機械施工協会感謝状贈呈」では、支部団体会員として会員期間60年の鹿島建設(株)中国支店、洋林建設(株)に、会員期間40年の大福工業(株)に、会員期間30年のカナツ技建工業(株)、三洋重機(株)の5支部団体会員に、当協会本部の河合支部長から感謝状が贈呈されました。

また、「建設の機械化施工優良技術者表彰」では、支部会員各社から推薦された運転・整備部門1名、管理部門5名、技術開発部門1名の合計7名に優良技術者表彰状と記念品が贈呈されました。

なお、今年度の優良技術者表彰を受賞された方々は次のとおりです。

※敬称略

運転・整備部門	東原 敏明：(株)加藤組
管 理 部 門	牧野 孝昭：鹿島道路(株)中四国支店
	中村 亮三：(株)加藤組
	西村 進：(株)技工団
	中谷 弘志：五洋建設(株)中国支店
	中井 力揮：西松建設(株)中国支店
技術開発部門	森田日南人：奥村組土木興業(株)広島支店



感謝状を贈呈された支部会員の方々  
※洋林建設(株)、三洋重機(株)は当日欠席



優良技術者表彰を受賞された方々



記念講演の様子

### <講話・記念講演>

総会後に行われた講話では、中国地方整備局企画部の岸本孝文氏から「国土交通行政の最近の話題」と題し、令和6年度の主要事業や主要施策について紹介いただきました。

また、記念講演では、広島市道路交通局交通施設整備部の有木健一郎氏から「広島駅南口広場の再整備等について」と題し、現在JRの広島駅南口周辺で建設が進められている路面電車の駅前大橋ルート  
の整備、広島駅ビルの建て替え、広島駅南口広場の改修について、写真や完成イメージなどにより分かり易く紹介いただきました。

# 「DX・i-Conセミナー2024」を開催しました

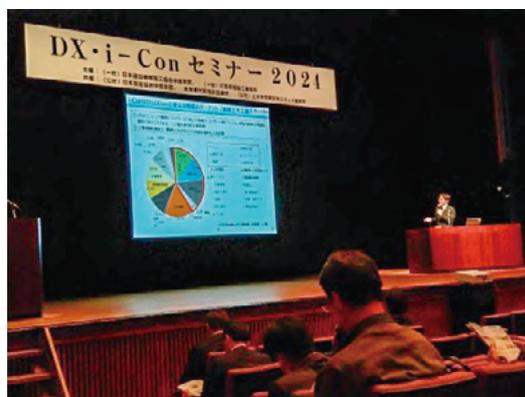
(一社)日本建設機械施工協会中国支部では、4月25日(木)広島県民文化センターにて「DX・i-Conセミナー2024」を開催しました。

インフラDX・i-Constructionは、国土交通省はもとより地方公共団体でも取組みが促進され、地元の施工業者、測量設計業者等による活用も拡大し、いよいよ本格的な実施段階に来ている中、BIM/CIMは令和5年度より国土交通省の直轄案件において全面適用とされており、最新の情報が不可欠な状況にあります。

このため、新年度に入ったこの時期にインフラDX・i-Constructionの現状、今後の方向性や最新の活用事例を紹介する事を目的とし、発注機関ならびに測量、設計、施工、維持管理に携わる企業の技術者など、セミナーとして幅広く参加を募って開催しました。セミナーには215名が参加し、関係者の感心の高さが伺えました。



会場の様子(全景)



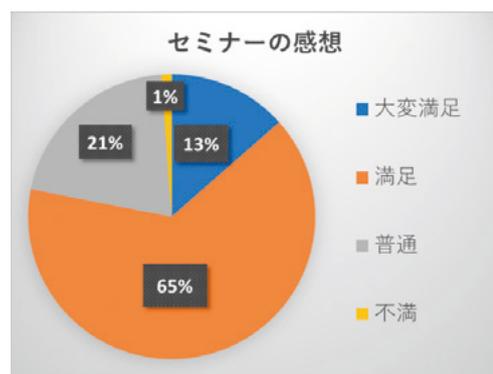
会場の様子(講演状況)

## ■当日の講演内容

※講師敬称略

講演内容(演題)	所属・氏名
建設DXに資するICT施工の取組	国土交通省 大臣官房 参事官(イノベーション)グループ 施工企画室 阿久根祐之
中国地方の建設現場の生産性向上について	中国地方整備局 企画部 新田 紀明
ICT活用工事の課題と解決のヒント	(一社)日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 藤島 崇
i-Con銭勘定	コベルコ建機(株)新事業推進部 新事業企画グループ 関口 伸吾

## ■参加者アンケート結果(抜粋)



## ■アンケート:意見・感想(一部要約)

- ・独学で学習できるような手順書、マニュアル類を充実させてほしい
- ・うまく活用すれば効率が上げられる方法であり、やり方次第なのだとわかりました
- ・当日、資料をダウンロードできる二次元コードも希望します

# 令和6年度 建設技術講習会をWeb形式で開催しました

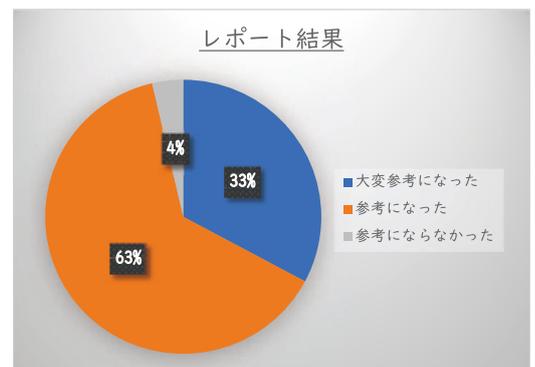
(一社)日本建設機械施工協会中国支部では、支部会員の皆様に向けて事業活動に重要な最新の技術情報及び動向を提供する「建設技術講習会」を開催しています。当講習会は令和3年度からコロナ禍の影響を受け、Web形式のビデオ講習会に形態を変更し今回で4回目となりました。聴講者の皆様からは「聴講し易く、理解もし易い」との意見を多くいただいております。300名を超える聴講となっています。聴講後には、今後の講習会に向けてのご意見などレポートの提出もしていただきました。

一般社団法人 日本建設機械施工協会 中国支部			
令和6年度 建設技術講習会【Web】プログラム			
【日時】令和6年5月15日(水)9時~令和6年5月28日(火)18時			
全国土木施工管理技士会連合会CPDS認定講習			※敬称略
講義時間	演題	講師	
0.	10分	ガイダンス	日本建設機械施工協会中国支部 開発普及部会 松本 治男
1.	60分	ICT活用工事の最近の動向と事例紹介	日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 椎葉 祐士
2.	60分	令和6年度の入札契約制度及び生産性の向上と働き方改革について	中国地方整備局 企画部 技術管理課長 竹江 仁
3.	60分	中国地方整備局のインフラDXとBIM/CIMの取り組み	中国地方整備局 企画部 工物品質調整官 藤原 功
4.	60分	河川分野における最近の取り組みについて	中国地方整備局 河川部 河川情報管理官 今岡 俊和
5.	30分	社会資本の戦略的な維持管理について	中国地方整備局 道路部 道路保全企画官 西岡 寿雄
6.	30分	埋蔵文化財の保護と3次元計測技術を利用した施工管理	大福工業(株) 安部 佳大
7.	30分	自動化セントルによるトンネル覆工の生産性向上	西松建設(株) 中国支店 土木工事部 飯古 光輝



レポートの結果では「参考になった」との回答を全体の96%の方からいただきました。その理由として「ICT、DX、BIM/CIM、入札制度と最新情報をバランスよく聴講できとても良かった」「ビデオ講習なので、現場の都合の良い時に適宜、業務に支障を来すことなく視聴できた」「繰り返し聴講できより理解できた」などのご意見です。

また一方で「重複した内容であった」「施工事例の講義を増やして欲しい」など改善を求める意見もありましたが、全体的には、Webによるビデオ講習の利点が生かされた有意義な講習会であったといえ、今後もこれらの意見を参考にビデオ講習会を充実できればと考えています。

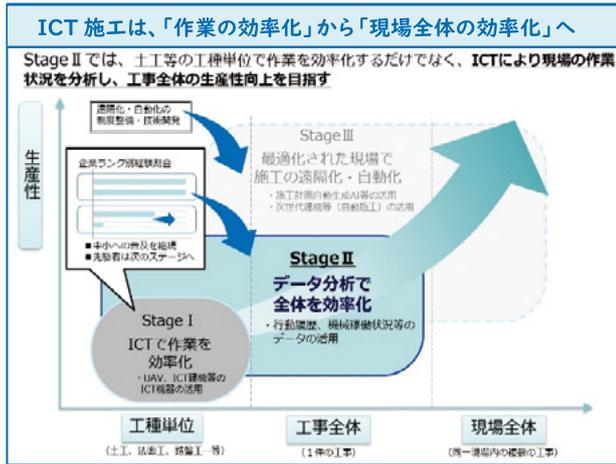


# 国土交通省コーナー

## ■「中国地方整備局インフラDX推進計画2024」の策定

中国地方整備局では「中国ブロックにおける社会資本整備重点計画」の重点目標でもあるインフラ分野のDXを令和4年度から本格的に進めています。

令和6年3月18日に策定した「中国地方整備局インフラDX推進計画2024」においては、工事全体の生産性向上を図るため、令和6年度には「ICT施工Stage II」の実施を目指す方針を新たに掲げています。また、職員のニーズや進展するデジタル技術等も踏まえ、新たに8件の取組を追加し、68件の取組によりDX推進を図ることとしています。



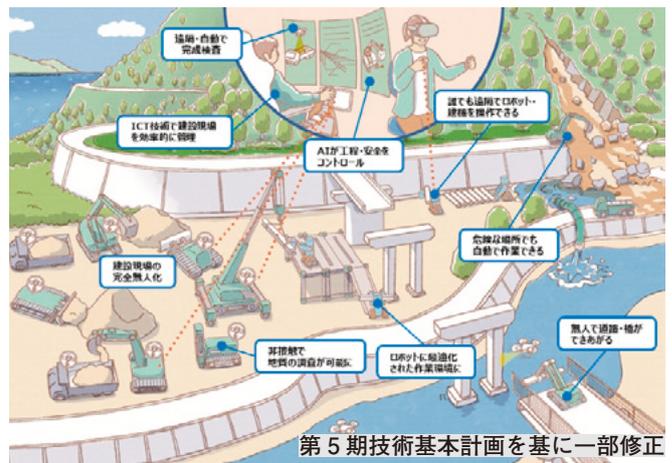
令和5年度中国地方整備局管内工事における先進的な取り組み事例(松江国道事務所)

## ■「i-Construction 2.0 (建設現場のオートメーション化)」について (国土交通省本省)

国土交通省では、建設現場の生産性向上や業務、組織、プロセス、文化・風土や働き方の変革を目的として、i-Construction及びインフラ分野のDXを推進しています。

i-Constructionの取組を加速し、建設現場における省人化対策に取り組むため、国土交通省の新たな建設現場の生産性向上(省人化)の取組を「i-Construction 2.0」として4月16日に公表しています。

「i-Construction 2.0」では、2040年度までに建設現場の省人化を少なくとも3割、すなわち生産性を1.5倍向上することを目指し、「施工のオートメーション化」、「データ連携のオートメーション化」、「施工管理のオートメーション化」を3本柱として、建設現場で働く一人ひとりが生み出す価値を向上させ、少ない人数で、安全に、快適な環境で働く生産性の高い建設現場実現を目指して、建設現場のオートメーション化に取り組むことにしています。



「i-Construction 2.0」が実現を目指す社会(イメージ)

## 令和6年能登半島地震への中国地方整備局の対応

令和6年1月1日（月）石川県能登地方を震源とする最大震度7.5強の地震が連続して発生し、日本海側に大津波警報が発表されました。中国地方整備局からも被災地支援のため「先遣班」「被災状況調査班」「現地支援班」「高度技術指導班（水道班、道路班、港湾班）」「待機支援車班」をTEC-FORCEとして現地に派遣しました。

災害対策用機械の派遣では「現地支援班」として、以下の活動を行いました。

○派遣期間：令和6年1月4日～2月29日

○派遣場所：石川県志賀町、能登町、珠洲市

○派遣職員数：のべ178人・日（機械職員及び庶務担当職員）

○被災地支援協力企業：40社

○活動内容：

1) 志賀町、能登町及び珠洲市の給水支援

給水機能付き散水車 2台：三次河川国道事務所、山口河川国道事務所

2) 珠洲市の電源支援

照明車 5台：鳥取河川国道事務所、出雲河川事務所、岡山河川事務所、太田川河川事務所、三次河川国道事務所

3) 被災状況調査班の現地支援

対策本部車 3台：倉吉河川国道事務所、中国技術事務所（2台）

待機支援車 3台：倉吉河川国道事務所、岡山河川事務所、中国技術事務所



今回の支援活動では、初めて現地に派遣した照明車から停電していた避難施設などに電力の供給を行うとともに、現地に派遣した職員の宿泊・仮眠施設として待機支援車を本格的に活用しました。

なお、派遣された職員及び協力企業の皆様の活動は、劣悪な環境下で寒さや余震が続く中での災害対応となることから、災害対策本部では特に派遣者の体調管理に留意するとともに、現地の状況把握、現地での仮眠が連続とならないよう、日々調整に務めました。

令和6年3月12日に令和5年度の最終報告会を開催し、報告会では被災地支援でご協力をいただいた全ての協力企業（40社）へ中崎剛中国地方整備局長から謝辞をお伝えしました。

この度の被災地支援活動では、様々な課題も分かっており、中国地方整備局管内で同様な大規模地震が発生した場合の対応等について検討を始めています。



局長から協力全企業への謝辞  
（協力企業はWeb参加）

# 国土交通省コーナー

## ■機械設備の点検整備（役務）受注実績について総合評価項目に追加されました。

点検受注実績の活用として、令和6年1月以降に公告を行う下記の対象工事から、機械設備の点検整備（役務）の受注実績を総合評価における企業の能力等の評価を行います。

○対象工事 ※WTO対象工事、塗装工事を除く

- (1) 水門設備（河川用水門、ダム用水門、ゴム引布製起伏ゲート）
- (2) 揚排水ポンプ設備（揚排水ポンプ、コラム形水中ポンプ、除塵機）

○評価対象となる点検整備（機械設備）の契約実績条件

- ・中国地方整備局発注の役務の点検整備（機械設備）を契約履行中（落札者予定の通知又は落札決定の通知を受けていること。）
- ・公告当該施設と構造分類が同じ「河川用水門設備」、「ダム放流設備」、「ダム取水設備」、「ゴム引き布製起伏ゲート」、「揚排水ポンプ設備」、「コラム形水中ポンプ」、「除塵設備」の定期点検（年点検）を元請として契約履行中（落札者予定の通知又は落札決定の通知を受けていること。）

○評価基準

評価基準の内容	加算点
定期点検を元請として契約履行中が3件以上	1.0点
定期点検を元請として契約履行中が1件又は2件	0.5点
定期点検を元請として契約履行中無し	0点

## ■現場ニーズを解決する技術シーズを公募し試行活用（募集期間：令和4年4月～令和5年6月）

国土交通省では「新技術の発掘」や「企業間連携」の推進、新技術の開発促進・普及拡大等を図ることを目的として、建設現場に係る課題「現場ニーズ」と企業等の「技術シーズ」をマッチングさせる取組を行っています。

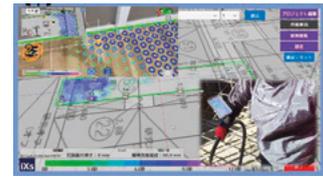
中国地方整備局では、従来の技術シーズの公募に加え、令和3年度から中国経済産業局や中小企業基盤整備機構中国本部などと連携し、中堅・中小企業の革新的な技術の活用を促進するため、中小企業基盤整備機構が運営しているマッチングサイト「J-Goodtech（ジェグテック）」を通じて幅広い「技術シーズ」の公募を行っています。

令和4年度は目地から草が生えない防草対策（3技術）、AIを活用した道路照明の点検（1技術）がマッチングし、令和5年度試行工事を実施したところです。

令和6年度は中国地方整備局管内でニーズの高かった、7技術（①架空線接触事故防止技術、②CBR調査の効率化に関する技術、③プレロード盛土管理として、設計と現地との相違を把握し、圧密収束が容易に把握出来る技術、④切土部の法面保護について植生不良が発生しない技術、⑤植樹管理におけるカヤの抜き取り技術、⑥残存型枠を控え無しで組み立てる技術、⑦竹チップ成分を活用したオオキンケイギク等の外来種の発生抑制技術）についてシーズを公募し、試行工事实現に向け調整しています。

令和5年度試行工事を行った技術は新技術の成立性や技術特性、活用効果等について新技術活用評価会議で評価を行い、結果を公表する予定です。

## 新入会員紹介



AR 施工状況管理システム NETIS



AI 保護具チェックシステム

AI 侵入者検知システム NETIS

イクシスはロボットに加え、**AI・XR・3D データソリューション**など、社会・産業インフラに特化した、高付加価値の製品・サービスを提供しております。私たちは、お客様の課題を解決すべく、「**使える**」「**使い続けられる**」製品とサービスの導入から運用まで一貫してサポートしております。



株式会社イクシス

中四国拠点

広島市中区上八丁堀 7-1

TEL 082-555-9917

## お知らせコーナー

### 今後の行事予定

日時	区分	行事名	内容	備考
令和6年 8月下旬頃	検定試験	令和6年度 建設機械施工管理技術第二次検 定(実技)試験	試験種別：1級・2級(第1種・2種・3種・4種) 試験会場：調整中	申請者

## 編集後記

今年も夏がやってきた。汗っかきの小生にとって不快極まりない季節の始まりだ。この原稿を書いている6月下旬は、全国各地で「夏越の祓い」を行うため「茅の輪くぐり」が行われる時期と重なる。

この業界にいと、梅雨明け前の大雨が降る時期と重なり、今後の降雨予測を見ながら一喜一憂する日が続くところ。今夏は6月12日に斐伊川の取水制限により、「中国地方整備局渇水対策本部」が設置され、やや渇水の出だしとなっていたが、梅雨入りの降雨により、6月24日昼に解散となった。

洪水であろうと、渇水であろうと、度が過ぎれば厄災。上半期の罪・穢れをお祓いするとともに、併せてこの編集後記をご覧の皆様の下半期の無病息災をお祈りして、「祓ひ給へ清め給へ」。

令和6年7月発行

編集・発行 (一社)日本建設機械施工協会中国支部機関誌編集委員会

〒730-0013 広島市中区八丁堀12-22 築地ビル402

TEL 082-221-6841

FAX 082-221-6831

<https://jcmachugoku.jp/>

E-mail [jcma-chugoku@mx41.tiki.ne.jp](mailto:jcma-chugoku@mx41.tiki.ne.jp)